

職場における交通安全指導

Part 80

安全指導

交差点で左折時、横断中の歩行者に衝突



■事故の概要

- 発生状況
 - 日時：平成22年2月某日 午後7時頃
 - 天候：雨
- 道路状況
 - 片側1車線と2車線が交差する市街地の交差点
- 事故の当事者
 - 運転者A（普通貨物車）：28歳、男性
 - 被害者B（歩行者）：72歳、男性
- 被害状況
 - A：前部バンパー微損
 - B：左足首骨折、全身打撲（全治3か月）

事故状況

Aは普通貨物自動車を運転し、輸入雑貨類を大型店舗等へ搬送する業務に従事している。入社後1年になるが、入社前にも4年間運送業での乗務歴がある。

事故歴は、入社直後に追突による人身事故を起こしている。

Aの仕事振りは積極的で、荷作業も迅速に処理するが多少大雑把なところがあり、運転にも慎重さを欠くことが散見され、時々上司から指摘を受けることがあった。

当日Aは衣料品を搬送中で、最後の大型店での荷降ろしのため、片側1車線道路を走行中であった。

途中から降り出した雨は次第に雨脚を強め、走行中の幹線道路は事故に伴う渋滞が発生し、暫く

の間発進、停止状態が続いた。徐々に渋滞が解消しAが目的地へ近づいた頃には、予定の到着時間よりかなりの遅れが生じていた。

Aは、前方の交差点を左折しようと同地点に接近している時、左側の歩道を学生風の2人が自転車に乗り、ずぶ濡れの状態で自転車と併走するように進行している姿を認めた。

交差点の信号が青であったことから、Aは合図を出しながら徐々に左折の態勢に入ったが、左後方の自転車が気に掛かり、その動向に注意しながら左折を始めた。しかし、折からの強い雨で視界は悪く、ミラーによる後方確認は容易ではなかった。

Aは左折に当たり一旦前方の横断歩道に視線を向けたが、横断者が見当たらないので、すぐに後方の自転車に注意を移し、横断歩道を横切ろうとした。その時、前方でクラクションが鳴ったのでその方向を向いたところ、黒い物が目前に迫ってくるのを認め、急ブレーキをかけたが間に合わず、横断歩道を渡っていた歩行者Bを撥ねて負傷させた。クラクションは近くの車が危険を察知し鳴らしたものだ。

この事故の原因は、Aが交差点を左折する際、後方の自転車に気をとられ、前方注視を怠ったため、横断歩道を渡っていた歩行者Bの発見が遅れたことである。

一方Bも、横殴りの雨のため傘を前方に傾け、周囲への警戒を怠った状態で横断歩道を渡ったことは注意力を欠いた行動であったといえる。

① 職業運転者の自覚

Aは交差点を左折する際、後方の自転車に気を奪われ、横断歩道を一瞬見ただけで「歩行者はいない」と思い込み、Bに気が付きませんでした。

「運転は人柄を現す」といいますが、Aの場合、日頃から慎重さに欠けた運転を上司に注意されていました。しかし、運送業に入って月日が経つにつれ、仕事への慣れや運転への過信が芽生え、次第に増幅されていました。

運送業務に当たる職業運転者は、預かった荷物を安全・確実に、そして迅速に輸送する使命があり、交通事故防止は不可欠な要素であるといえます。

Aは今回の事故を含めこれまで同じような事故を起こしていますが、その背景には職業運転者としての自覚に甘さがあったことは否めません。

一度事故を起こせば、被害者はもとより本人や家族、周りの人々に多大な影響を及ぼす重大性を常に念頭において、安全運転への確固たる自覚が求められます。

人の行動にミスは付き物ですが、運転ミスの及ぼす影響の大きさを考えれば、職業運転者には「運転ミスは許されない」といった気構えが必要です。

人は誰も運転免許を取った直後は、謙虚な気持ちで慎重な運転を心掛けますが、暫くすると初心を忘れベテランになったような振舞いをしがちです。常に職業運転者としての自覚を持ち、決して過信せず、常に冷静で初心を忘れない運転を心掛けましょう。

② 平常心を保つ

当日は渋滞に巻き込まれ、到着時間に遅れが生じた焦りから、安全確認が疎かになってしまいました。

気持ちが不安定な状態では、どうしても運転の基本要素である認知・判断・操作に間違いや遅れが生じ、交通事故に結び付きかねません。

日頃から、心身の状態が良好に保てるよう、「体調をベストに」、「時間に余裕を」、「気持ちにゆとりを持つこと」に十分配慮し、常に冷静に、平常心で安全運転ができるよう心掛けましょう。

神奈川県交通安全県民運動の年間スローガン

「安全は心と時間のゆとりから」

③ 危険を予測する運転

交差点を右左折する際、事故発生当時のように視界不良な状況では、様々な危険な事態を予想し運転に集中すべきであり、なかでも横断歩行者には細心の注意が必要でした。

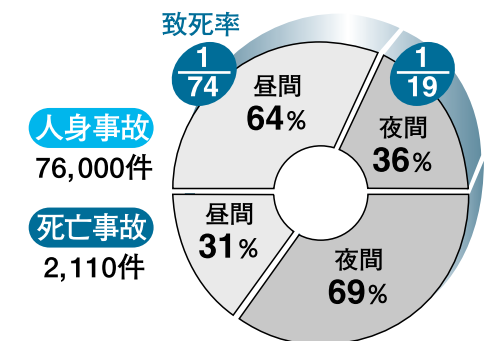
Aは、歩道を走行中の自転車にだけ注意が偏り、瞬間的に横断歩道上に視線を向けただけで「横断者はいない」と判断し、直ぐに目を離してしまいましたが、この判断が甘かったことは否めません。

「気が付いた時には既に手遅れ」とならないよう、特に雨の日は見落とし易い歩行者や自転車を早期に発見できるよう、危険を予測した運転を実践しましょう。

●死亡事故は夜間に多発…

■昼夜別発生状況

※(財)交通事故総合分析センターの基礎データにより分析、自動車・原付の事故に限る



平成22年度交通事故防止重点項目

1. 追突・後退事故の根絶

- (1) 速度に応じた車間距離の確保
- (2) 漫然・脇見運転の防止
- (3) 後退は、下車して安全確認

2. 交差点事故の根絶

- (1) 横断歩行者（特に高齢者、子ども）に注意
- (2) 右折時、対向直進する二輪車に注意
- (3) 左折時、左後方の二輪車・自転車に注意